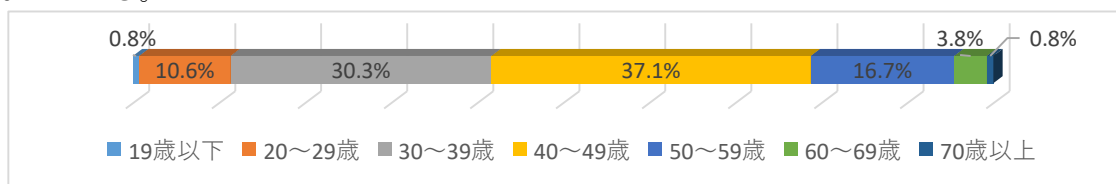


多様性に満ちた社会づくりに関する県民アンケートの状況（8月末）

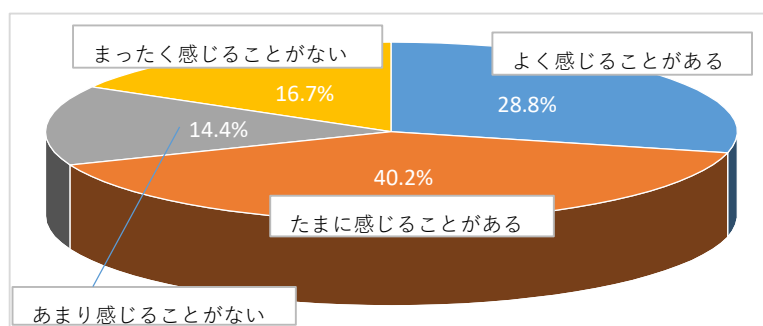
1 回答者の年齢

- 回答者の年齢は、40代が37.1%で最も多く、次いで30歳代の30.3%、50歳代が16.7%となっている。



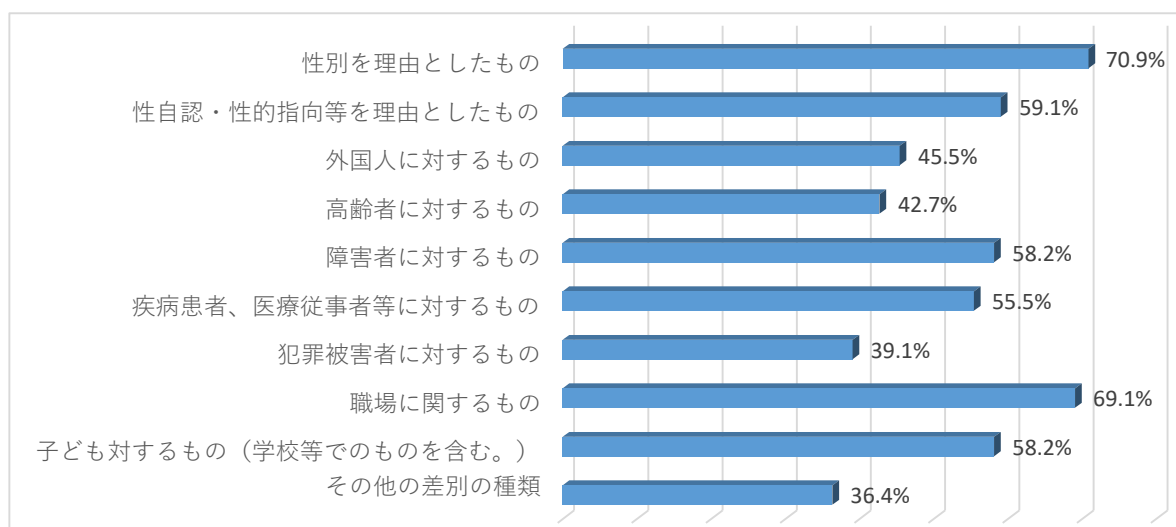
2 差別を感じる頻度

- 「たまに感じることもある」が40.2%で最も多く、次いで「よく感じることもある」が28.8%であった。
- 頻度に関わらず、何らかの差別を感じている人の割合は、83.4%であった。



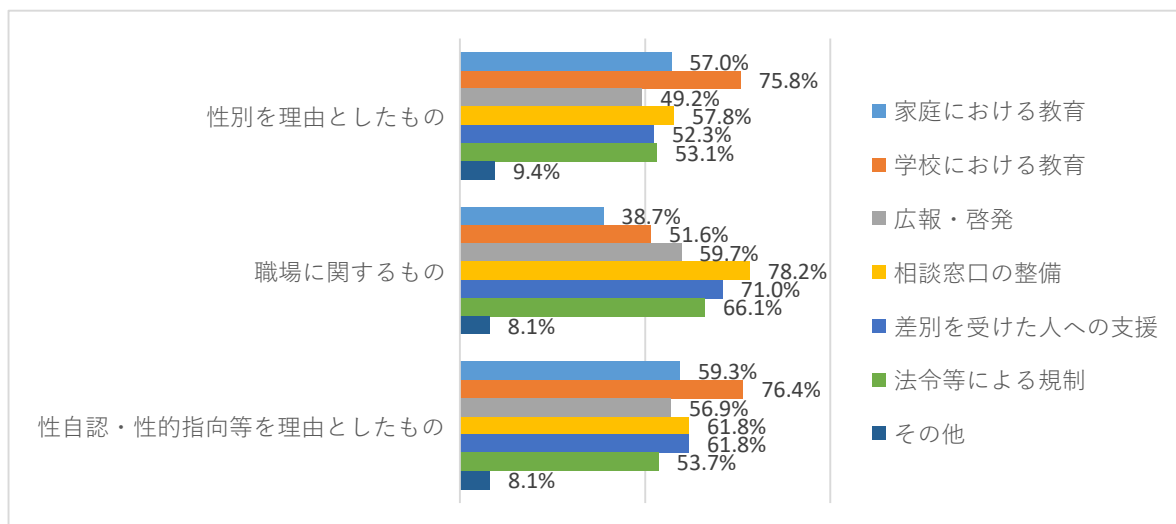
3 感じた差別の種類

- 2で「まったく感じることはない」とした以外の人に、複数回答可能として、感じた差別に関して回答を求めた。
- 「性別を理由としたもの」が70.9%で最も多く、次いで「職場に関するもの」が69.1%、「性自認・性的指向等を理由としたもの」が59.1%となっている。



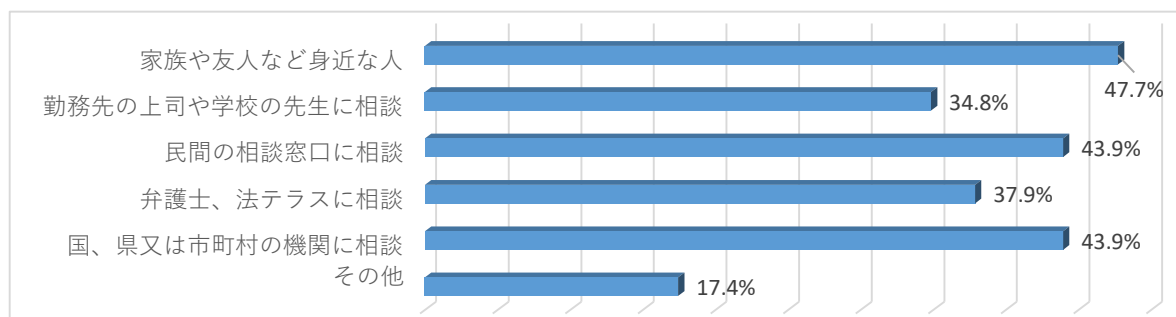
4 差別ごとの必要な対応策

- ・ 「性別を理由としたもの」及び「性自認・性的指向等を理由としたもの」に関しては、「学校における教育」が75%を超えており、必要と考えている人の割合が最も高い。
- ・ 「職場に関するもの」については、「相談窓口の整備」が78.2%で必要と考えている人の割合が最も高い。



5 差別を感じた場合の相談先

- ・ 差別があった場合の相談先については、「家族や友人など身近な人」が47.7%で最も割合が高く、次いで「民間の相談窓口相談」「国、県又は市町村の機関に相談」が共に43.9%で高い割合を示している。



6 差別に関する学びの機会について

- ・ どのような方法が学びの機会として好ましいかについては、「ウェブサイト」が45.5%で最も割合が高く、次いで「SNS（ツイッター、フェイスブック等）」「講演会、研修会」が共に42.4%、「テレビ」が37.9%であった。

